

第4章 公共交通の現状

1 道路交通の概要

1-1 道路網

- 沖縄市の道路網は、南北方向に縦貫する国道 329 号、国道 330 号、沖縄自動車道を骨格に形成されています。
- 東西方向の幹線道路は、県道 75 号線や、県道 74 号線、県道 24 号線などで構成され、これらの道路により東西に隣接するうるま市、嘉手納町、北谷町と結ばれています。
- また、環状道路として、県道 85 号線が沖縄市を 1 周しています。

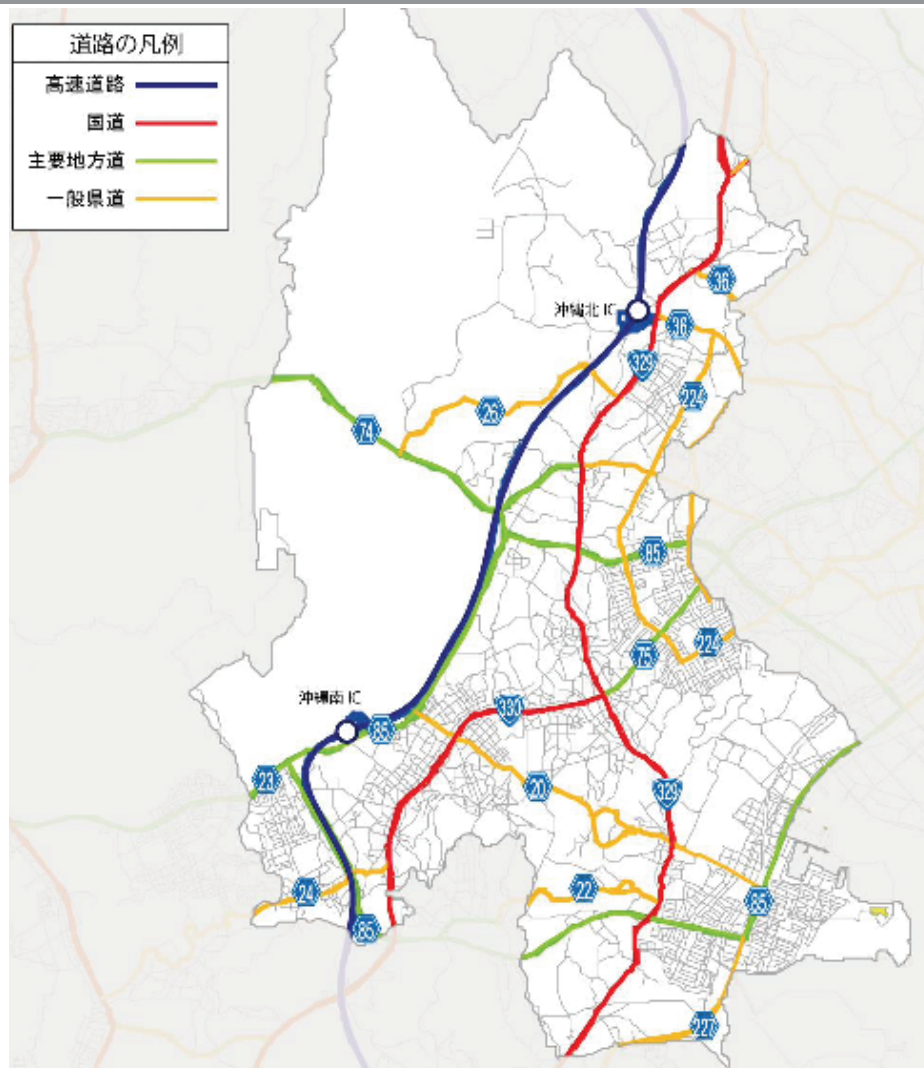
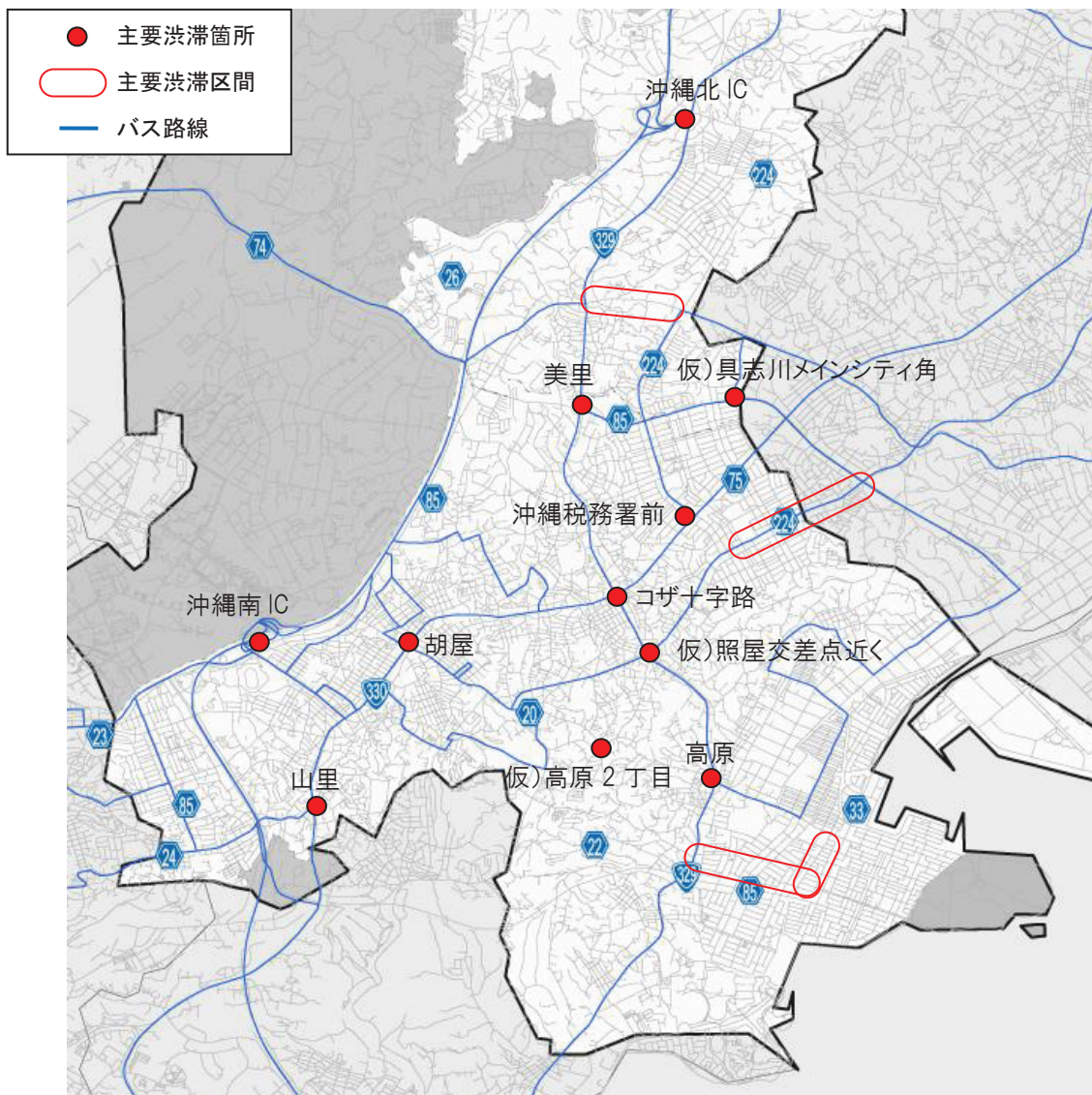


図 4-1. 沖縄市の道路網

1-2 主要渋滞箇所

- 沖縄地方渋滞対策協議会によると、市内には主要渋滞箇所 11 箇所と 3 つの区間があります。
- 主要渋滞箇所・区間は、沖縄北 IC、高原、コザ、山里など市内各地に点在しています。
- 主要渋滞箇所の多くは、路線バスのルートと重なっており、渋滞により路線バスの定時性や速達性が低下している状況がうかがえます。
- 主要渋滞区間は、路線バスのルートと重なっていない区間があり、渋滞要因となっている可能性があります。



参考：H24 わった-島の渋滞改善さびら

図 4-2.バス路線と沖縄市の主要渋滞箇所

2 バス路線

2-1 運行状況

- 沖縄市内には、琉球バス交通、沖縄バス、東陽バスの3社の路線バスと、高速道路のみの運行になりますが、やんばる急行バスが運行しています。
- 平成29年現在、沖縄市内には29系統の路線バスが運行されており、そのうち5系統が高速バスになります。
- 路線バス網は、国道330号と接続する県道75号線、国道329号の2方向で多く運行されており、特に、胡屋〜コザ間では多くの路線が運行されています。
- 一方で、県道20号線や県道85号線など市街地の幹線道路で路線バスが運行されていない道路もあります。
- 近年では、東部地区において、平成26年3月に96番系統：沖縄東中学校線、同年9月に旧60番系統：泡瀬循環線が廃止となっています。
- 路線バス以外にも、沖縄市では中心市街地循環バスを運行しています。

表 4-1 沖縄市を通過する路線バス一覧

高速バス	急行バス	一般
111 高速バス	331 急行 (泡瀬)	21 新都心具志川線
113 具志川空港線	777 急行 (屋慶名)	75 石川北谷線
123 石川空港線	23* 具志川線	77 名護東線
127 屋慶名・高速線	24 那覇大謝名線	80 与那城線
YB やんばる急行	※一部、特急、急行あり	27 屋慶名線
		90 知花線
		93 屋慶名〜イオンライカム
		30 泡瀬東線
		110 長田具志川線
		31 泡瀬西線
		52 与勝線
		112 国体道路線
		60 泡瀬イオンライカム線
		223 具志川おもろまち線
		61 前原線
		227 屋慶名おもろまち線
		62 中部線
		263 謝刈おもろまち線
		63 謝刈線

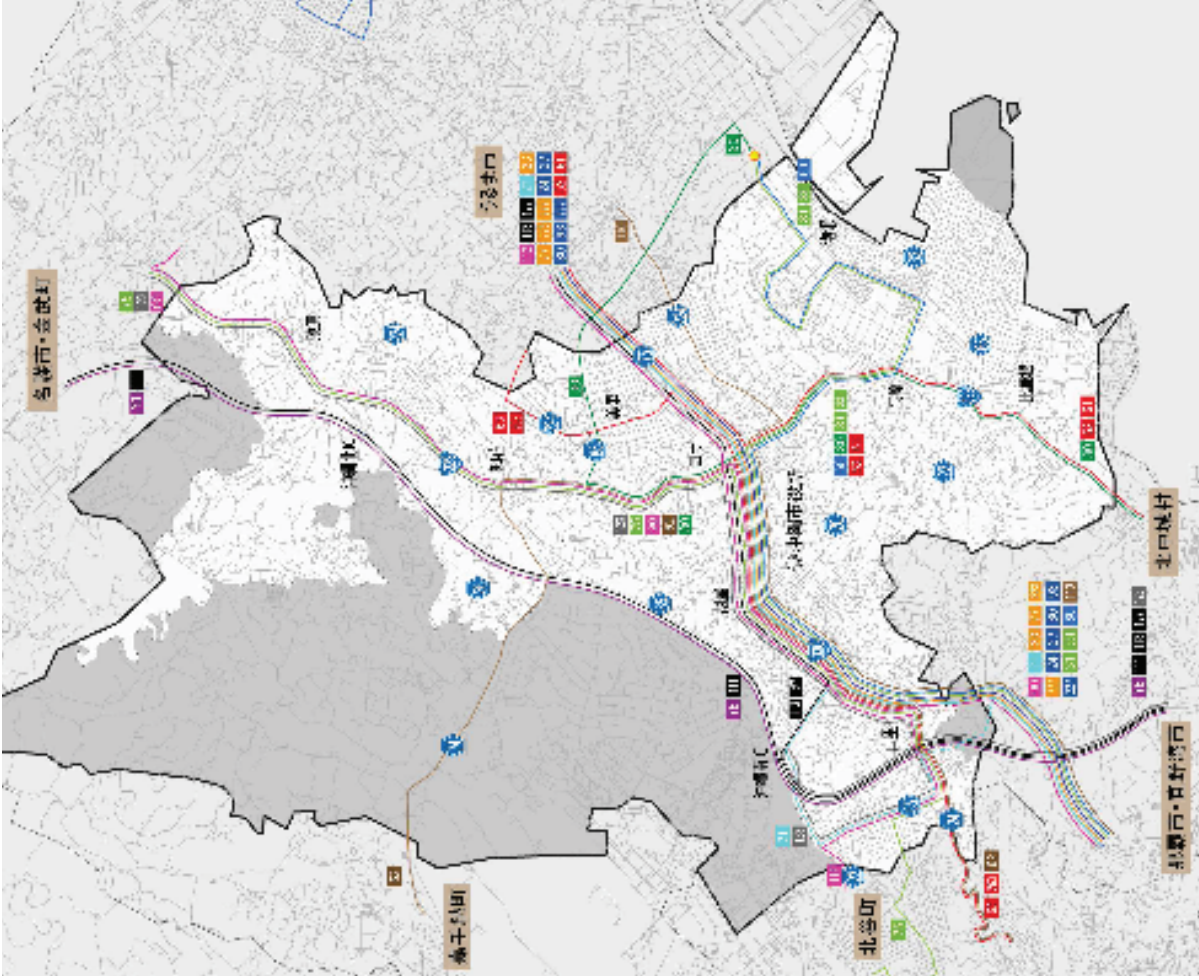


図 4-3 沖縄市内のバス路線図

3 公共交通の空白地域

- 多くの路線バスが走行している国道329号、国道330号、県道75号線などの幹線道路には、一定間隔でバス停が整備されており、沿線の多くの地域は、バス停から200～300mの範囲に含まれています。
- バス停の利用圏域について明確な定義はありませんが、北部地区の国道329号から離れたところや、東部地区の多くの場所では、バス停から200～300m以上離れており、公共交通の空白地域になっているといえます。
- 登川や大里、泡瀬、海邦、照屋、住吉、久保田といった人口密集地においても公共交通空白地域となっているところがあります。
- バス停の利用圏域300m以遠に総人口の41.0%の方が居住しています。(H29.11)

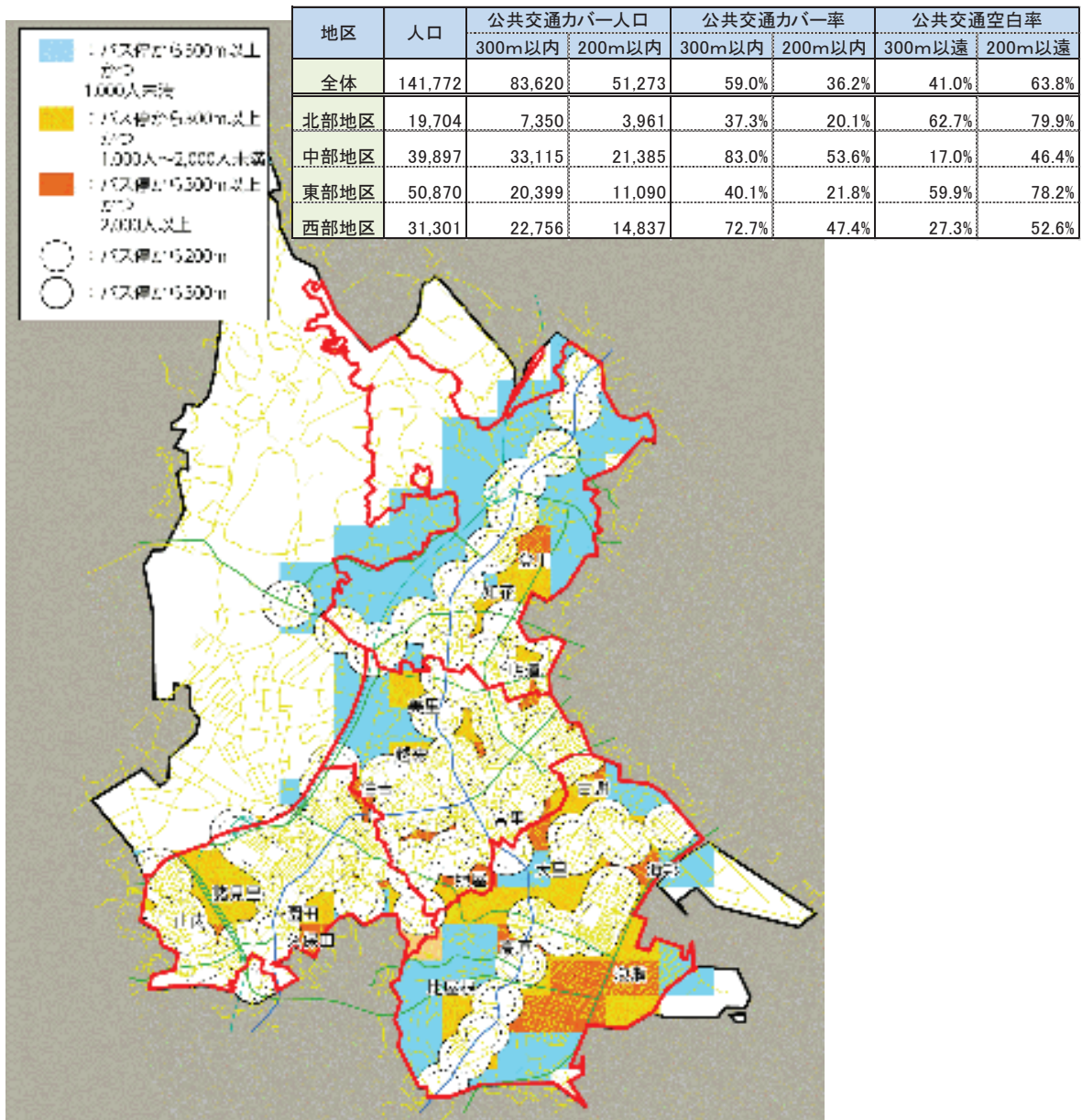


図 4-5. 沖縄市における公共交通空白地域

4 沖縄市中心市街地循環バス

4-1 運行状況

- 平成 22 年 6 月から沖縄市中心市街地循環バスの実証実験を開始し、現在では胡屋ルート（停留所 13 箇所、L=8km）とコザルート（停留所 12 箇所、L=7km）の 2 ルートで計 31 便/日が運行されています。

- 導入目的：中心市街地の回遊性を高め、賑わいを創出し、中心市街地の活性化を推進することを目的としている。そのため、運行ルートを中心市街地に限定して運行している。
- 運営形態：交通事業者への運行委託（胡屋ルート：琉球バス、コザルート：東陽バス）
道路運送法 第 4 条運行（緑ナンバー）
- 運行開始年月：平成 22 年 6 月～（実証実験）、平成 25 年 4 月～（本格運行）
- コース：2 コース（胡屋ルート、コザルート）

	胡屋ルート	コザルート
停留所数	13 箇所	12 箇所
路線距離	8km	7km
所要時間	40 分	35 分
便数	15 便/日	16 便/日

- 運賃 均一 100 円（小学生以下無料、障がい者手帳所有者無料）
- 車両タイプ：小型タイプ 借上料・運行委託料：沖縄市負担
- 利用状況及び収支（平成 28 年度実績）
年間収入：627 万円 年間支出：3,507 万円 2,880 万円の財政負担
1 年間の利用者数 95,606 人/年 264 人/日



図 4-6. 沖縄市中心市街地循環バスの概要 (H29.3)

4-2 利用状況

(1) 胡屋ルート

- 胡屋ルートの年間の利用者数をみると、乗車は「沖縄市役所」が約 10,000 人と多く、その他では「沖縄徳洲苑前」、「中の町バス停」が約 5,000 人と多くなっています。
- 降車は、「中の町バス停」が約 9,000 人、「沖縄市役所」が約 8,000 人、「沖縄徳洲苑前」が約 5,000 人と多くなっています。
- 利用者が多い「沖縄市役所」、「中の町バス停」、では平成 27 年度から平成 28 年度にかけて乗降客数は増加していますが、「ミュージックタウン」や「沖縄市文化センター」などでは、乗車・降車ともに平成 28 年度は平成 27 年度より利用者数が減少しています。

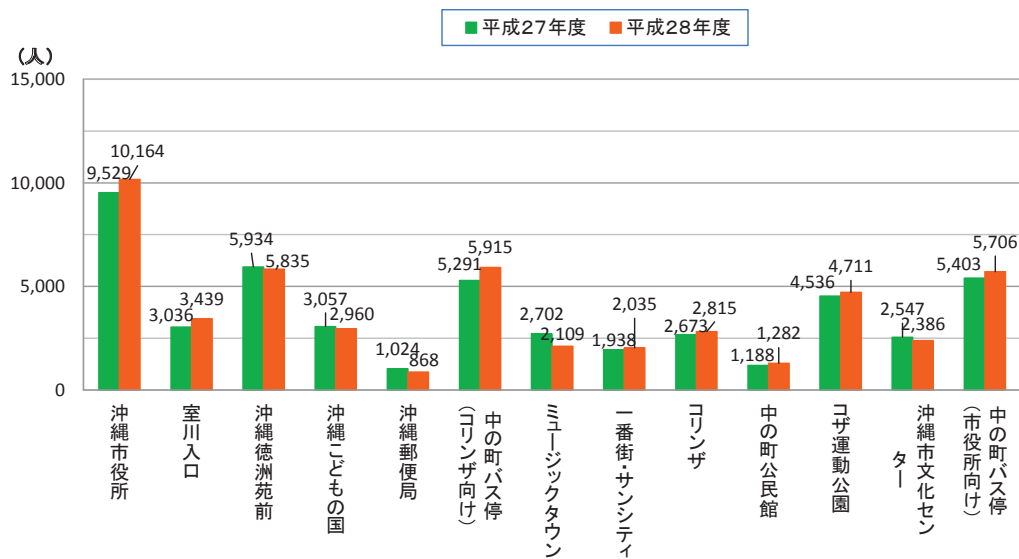


図 4-7. 胡屋ルートのバス停別乗車数

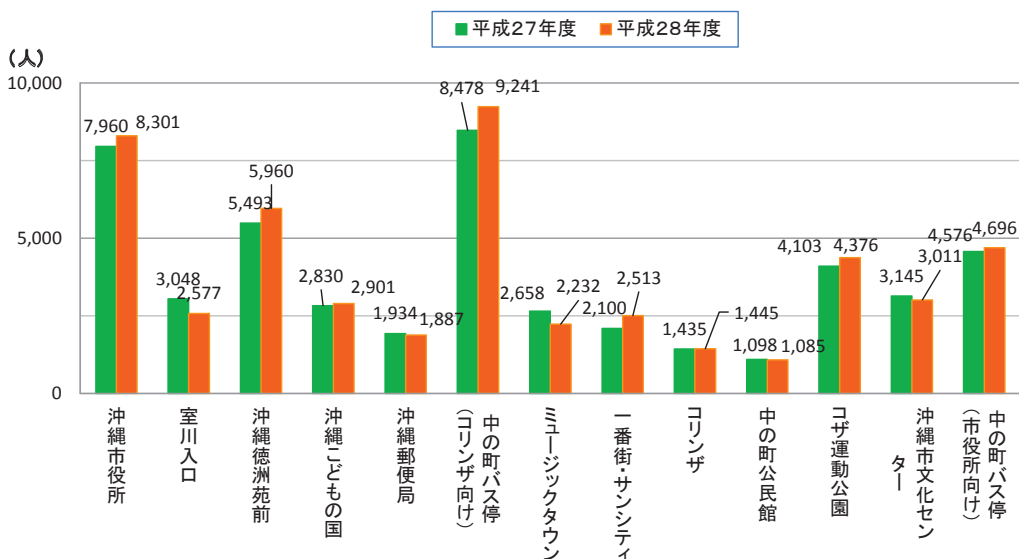


図 4-8. 胡屋ルートのバス停別降車数

(2)コザルート

- コザルートの年間の利用者数をみると、乗車は「沖縄市役所」が約 11,000 人と多く、その他では「銀天街（コザ十字路）」が約 7,000 人、「徳洲会入口」、「農連市場」が約 6,000 人と多くなっています。
- 降車は、「ミュージックタウン」、「沖縄市役所」が約 9,000 人と多く、「徳洲会入口」、「銀天街（コザ十字路）」が約 5,000 人と多くなっています。
- 「徳洲会入口」、「銀天街（コザ十字路）」、「農連市場」などでは、乗車・降車ともに平成 28 年度は平成 27 年度より利用者数が減少しています。

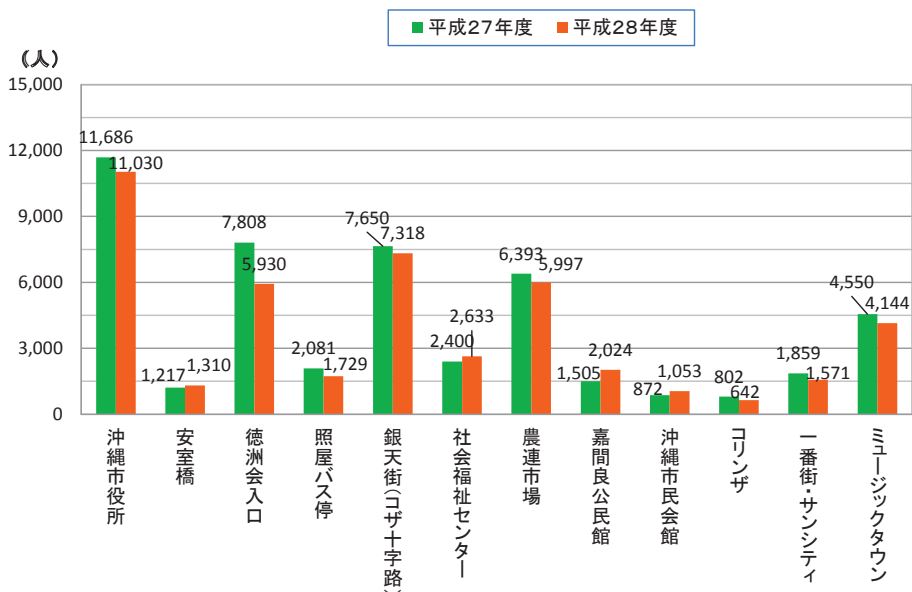


図 4-9.コザルートのバス停別乗車数

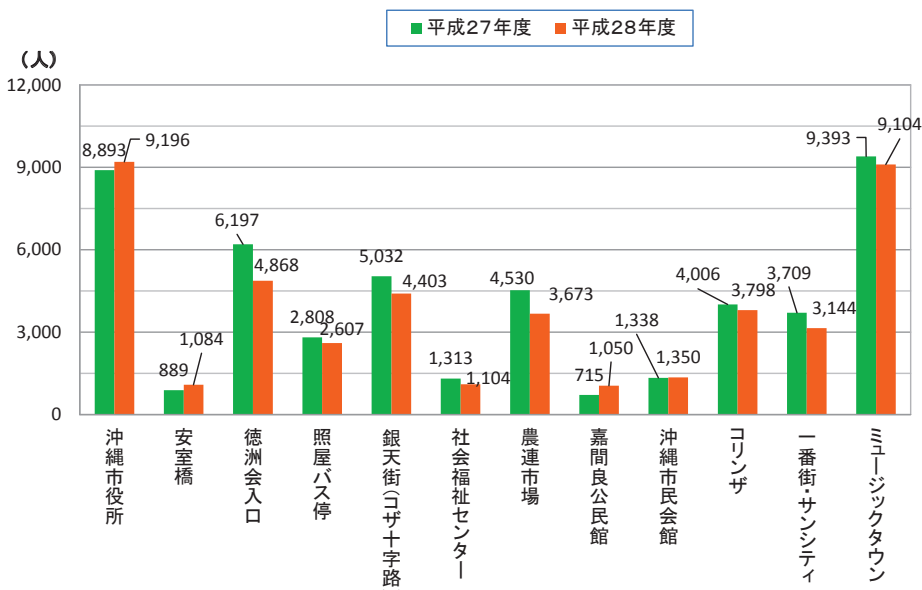


図 4-10.コザルートのバス停別降車数

4-3 利用者数・運行経費等の推移

- 中心市街地循環バスは、胡屋ルート、コザルートの2ルートが運行されていますが、両ルートとも利用者数は5万人前後で推移しています。
- 平成25年8月から有料化されていますが、事業費は、年間3,400万円前後、収入は年間600万円強、財政負担額は年間2,800万円前後で推移しています。
- 利用者一人当たりの年間の財政負担額は、平成28年度で301円であり、有料化以降、徐々に増加してきています。

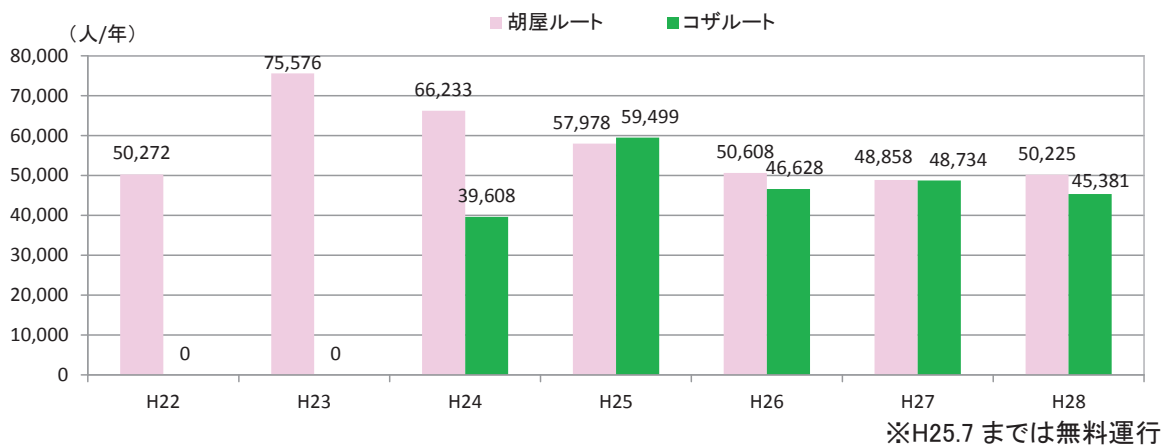


図 4-11. 中心市街地循環バスの利用者数の推移

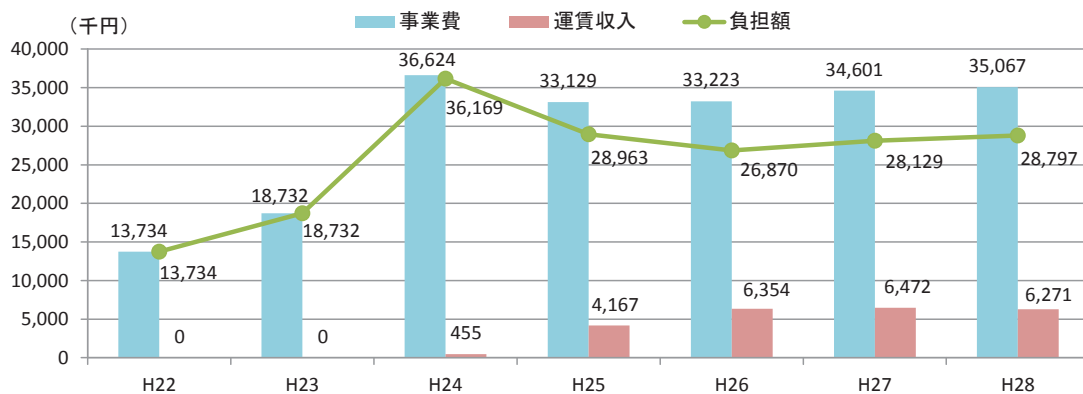


図 4-12. 中心市街地循環バスの収支の推移

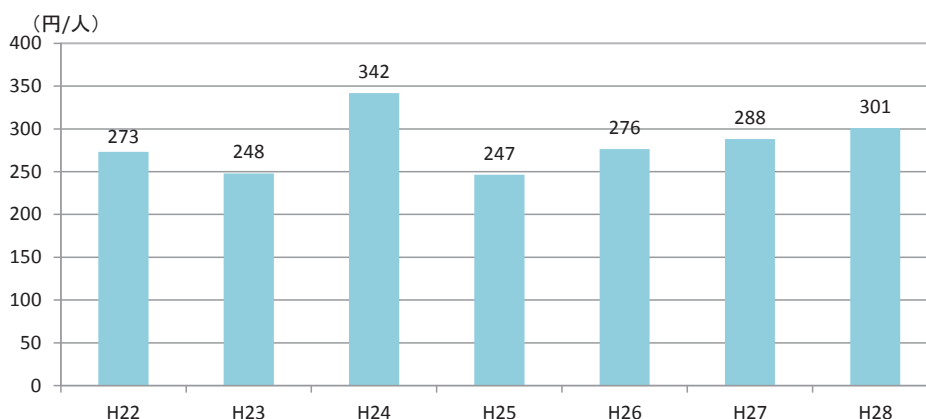
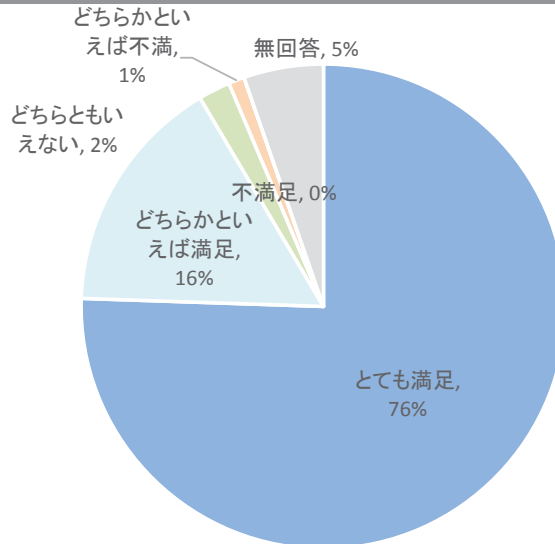


図 4-13. 中心市街地循環バスの利用者一人あたりの財政負担の推移

4-4 利用満足度

●平成 27 年度沖縄市中心市街地循環バス事業利用者アンケートによると、中心市街地循環バスの満足度は、76%の方が「とても満足」、16%の方が「どちらかといえば満足」とあわせて約9割の方が満足との回答になっています。



出典：H27 沖縄市中心市街地循環バス事業利用者アンケート

図 4-14.中心市街地循環バスの利用満足度

5 タクシー

●沖縄市内には、10社のタクシー事業者が営業しています。



参考：沖縄県ハイヤー・タクシー協会 HP

図 4-15.沖縄市内のタクシー事業所の位置

6 公共交通の現状のまとめ

1～5より沖縄市の公共交通の現状は、以下のように整理されます。

表 4-3.公共交通の現状のまとめ

項目	内容
道路交通の概要	●市内には主要渋滞箇所が11箇所、3区間あり、その多くはバス路線と重なっている。
バス路線	●平成29年現在、29系統（うち5系統は高速バス）の路線バスが運行されている。 ●運行便数は減少傾向にあり、平日では平成19年の1,254便/日から平成29年には909便/日へと345便/日、28%減少している。
公共交通の空白地域	●北部地区や東部地区などに、公共交通空白地域が存在する。
中心市街地循環バス	●中心市街地循環バスの利用者数、収入は横ばいで、事業費は微増で推移している。
タクシー	●市内では10社のタクシー事業者が営業している。